

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年6月15日

1. JAMA:ロングコロナの定義に関連して：ポストコロナではどの症状が多いのか？非感染者との比較調査
2. 札幌市下水サーベイランス最新データ

【松崎雑感】

1. 新型コロナに感染すると、非感染者よりも37の症状が有意に多くなっていたことが報告されました。ただし、非感染者よりも5割多い症状をピックアップしていますので、実際にはもっと多くの症状がロングコロナに関連しているでしょう。アメリカでは、コロナ感染後の体調不良で仕事や日常生活に支障のある人々を法律で救えと言う運動が始まっているようです。
2. 下水モニタリングでは、札幌は、前回の大きな感染スパイクの5合目までどんどん増えています。感染者が増えたなら、死亡者、重症者も増えます。コロナを侮るな！

ロングコロナの定義に関連して：

ポストコロナではどの症状が多いのか？非感染者との比較調査

Thaweethai T, Jolley SE, Karlson EW, et al. **Development of a Definition of Postacute Sequelae of SARS-CoV-2 Infection.** **JAMA.** 2023;329(22):1934-1946.
doi:10.1001/jama.2023.8823

研究の意義

新型コロナウイルス感染症は、急性期以後長期間続く体調不良postacute sequelae of SARS-CoV-2 infection (PASC)、いわゆるロングコロナが起きることが分かっている。ロングコロナの臨床増を明らかにするには、コロナ感染者と非感染者を長期的に追跡する必要がある。

方法

感染群と非感染群の自己申告の有症率を比較。ワクチン接種の有無、感染回数による調整を行う。33米州、ワシントンDCおよびプエルトリコの85施設（病院、保健センター、地域施設）からのRecoverトライアル（ロングコロナ調査研究コホート）に参加した人々を対象とした。感染から6か月以降の有症率を調査した。人口ベース調査、ボランティア調査、ランダム化を前提としない調査（対象に制限のない街頭調査など）によって対象者を収集。44種類の症状の継続率を調査した。

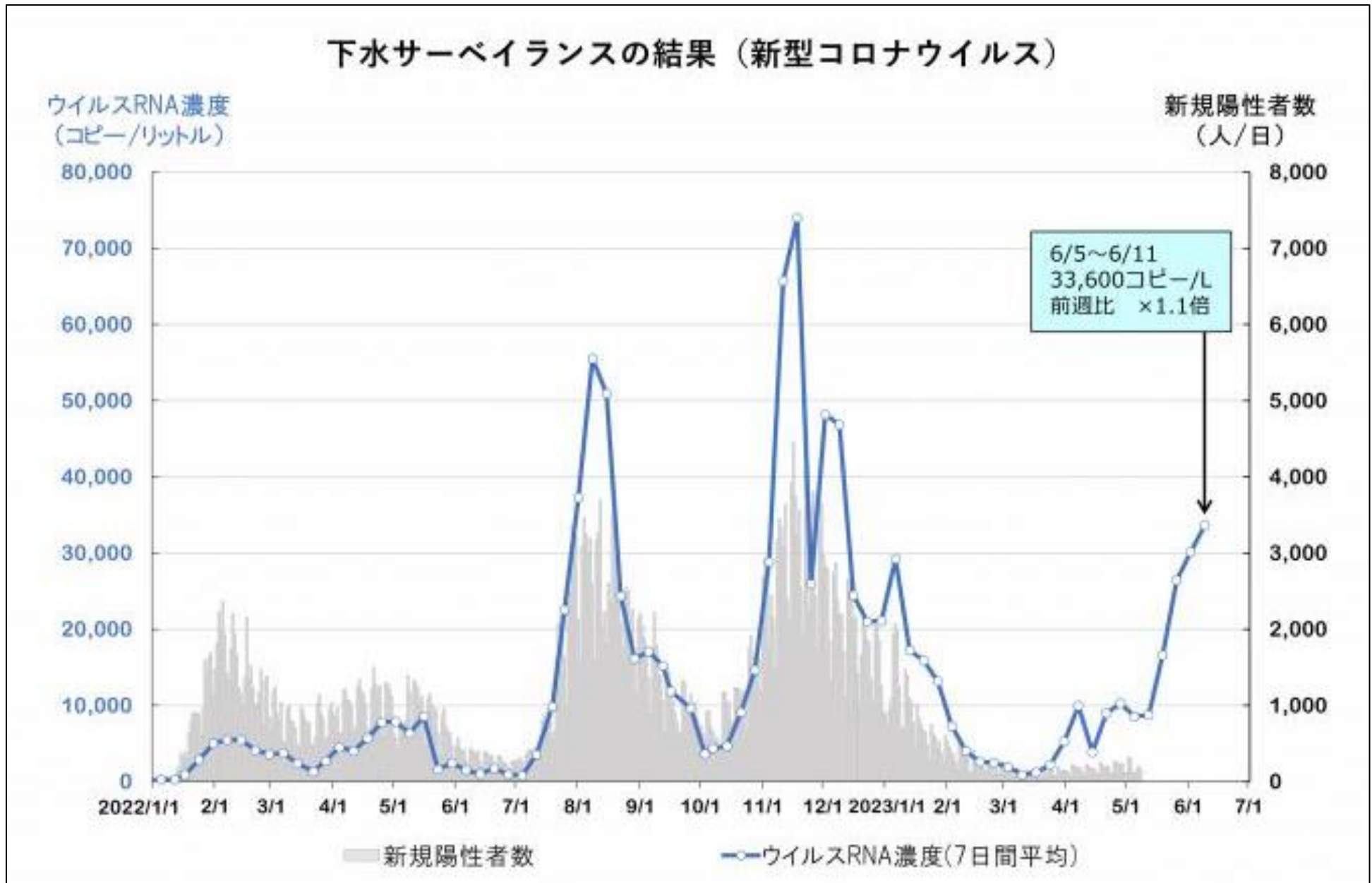
結果

解析対象者は9764名（感染者89%、女性71%、スペイン系16%、黒人15%、平均年齢47才）。感染から6か月後以降に非感染者よりも50%有症率の高かった症状（PASC症状）は37種見られた：労作後倦怠感、慢性的倦怠感、ブレインフォグ、めまい、消化器症状（嘔気、嘔吐、胃痛、腹痛、下痢、便秘、食欲不振）、動悸、不整脈、性欲（性功能）低下、味覚嗅覚障害、口渇、慢性の咳、胸痛、神経症状（自制できない震え、しびれ、刺すような痛み、焼けつくような痛み、痙攣）など。2021年12月1日以降に初感染となり本調査に参加した2231名のうち、224名（10%、95%信頼区間8.8～11%）において、感染から6か月後もこれらのPASC症状が継続していた。

結論

前向き調査により、**ロングコロナ症状であると定義可能な症候**が明らかになった。この調査の知見を生かして、ロングコロナの実用的な定義を作ることが求められる。

下水サーベイランス：札幌市では、6月はじめに、前回の最大ピークの5合目まで感染者が増えているようです。この後もっと増えるのではないのでしょうか。



[下水サーベイランス／札幌市 \(city.sapporo.jp\)](http://city.sapporo.jp)